

証券コード 7048
(発信日) 2024年3月11日
(電子提供措置の開始日) 2024年3月5日

招集ご通知

事業報告

計算書類

監査報告

株主総会参考書類

株 主 各 位

東京都中央区日本橋二丁目13番12号
ベルトラ株式会社
代表取締役社長兼CEO 二 木 渉

第34回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社第34回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご通知申し上げます。

なお、当日ご出席されない場合は、書面又はインターネットにより事前に議決権を行使することができますので、お手数ながら株主総会参考書類をご検討のうえ、2024年3月26日(火曜日)午後6時までに議決権を行使くださいますようお願い申し上げます。

本株主総会の招集に際しては、株主総会参考書類等の内容である情報（電子提供措置事項）について電子提供措置をとっており、インターネット上の当社ウェブサイト「第34回定時株主総会招集ご通知」として電子提供措置事項を掲載しております。

当社ウェブサイト <https://corp.veltra.com/ir/>

また、上記のほか、インターネット上の下記ウェブサイトにも掲載しております。以下の東証ウェブサイト（東証上場会社情報サービス）にアクセスのうえ、銘柄名（会社名）に「ベルトラ」又は証券コードに「7048」（半角）を入力・検索し、「基本情報」、「縦覧書類／P R 情報」を選択し、「縦欄書類」にある「株主総会招集通知/株主総会資料」欄よりご確認くださいようお願い申し上げます。

東証ウェブサイト（東証上場会社情報サービス）

<https://www2.jpex.co.jp/tseHpFront/JJK010010Action.do?Show=Show>

敬 具

記

1. 日 時 2024年3月27日（水曜日）午前10時
2. 場 所 東京都中央区日本橋兜町7番1号
KABUTO ONE 4階 HALL & CONFERENCE ホールA
(会場が前回と異なっておりますので、末尾の「株主総会会場ご案内図」をご参照いただき、お間違えのないようご注意ください。)

3. 目的事項

- 報告事項 1. 第34期（2023年1月1日から2023年12月31日まで）事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査等委員会の連結計算書類監査結果報告の件
2. 第34期（2023年1月1日から2023年12月31日まで）計算書類報告の件

決議事項

- 案 取締役（監査等委員である取締役を除く。）4名選任の件

以上

◎ 当日ご出席の際は、お手数ながら議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。

◎ 株主総会参考書類等の電子提供措置事項については、前記各ウェブサイトにはアクセスのうえ、ご確認いただくことを原則とし、基準日までに書面交付請求をいただいた株主様に限り、書面でお送りすることとなりましたが、本株主総会においては、書面交付請求の有無にかかわらず、一律に電子提供措置事項の記載を含む書面をお送りしております。

なお、電子提供措置事項のうち、次の事項につきましては、法令及び当社定款第18条第2項の規定に基づき、書面交付請求をいただいた株主様にお送りする書面からも記載を省略することとしておりますので、本招集ご通知には記載しておりません。

- ・ 業務の適正を確保するための体制及び当該体制の運用状況
- ・ 連結株主資本等変動計算書
- ・ 連結注記表
- ・ 株主資本等変動計算書
- ・ 個別注記表

従いまして、本招集ご通知は、会計監査人が会計監査報告を作成するに際して監査をした連結計算書類及び計算書類の一部であり、また、監査等委員会が監査報告を作成するに際して監査をした事業報告、連結計算書類及び計算書類の一部であります。

◎ 本招集ご通知又は電子提供措置事項に関して修正が生じた場合には、修正後の事項をインターネット上の当社ウェブサイト及び東証ウェブサイトにもその旨、修正前の事項及び修正後の事項を掲載させていただきます。

◎ 今後の状況により、やむを得ず株主総会の運営に大きな変更が生ずる場合は、当社ウェブサイト (<https://corp.veltra.com/ir/>) にお知らせいたします。



議決権行使についてのご案内

株主総会における議決権は、株主の皆さまの大切な権利です。
株主総会参考書類をご検討のうえ、議決権を行使していただきますようお願い申し上げます。
議決権を行使する方法は、以下の3つの方法がございます。



株主総会に ご出席される場合

議決権行使書用紙を会場受付にご提出ください。

日 時

2024年3月27日（水曜日）
午前10時開始



書面（郵送）で議決権を 行使される場合

議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示のうえ、切手を貼らずにご投函ください。

行使期限

2024年3月26日（火曜日）
午後6時到着分まで



インターネットで議決権を 行使される場合

次ページの案内に従って、議案の賛否をご入力ください。

行使期限

2024年3月26日（火曜日）
午後6時入力完了分まで

議決権行使書用紙のご記入方法のご案内

議決権行使書
〇〇〇〇〇〇〇〇 御中
株主総会日 議決権の数 XX 股
X X X X 年 X X 月 X X 日

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

1. _____
2. _____

ログイン用QRコード
ログインID XXXX-XXXX-XXXX-XXXX
パスワード XXXXX

見本

〇〇〇〇〇〇〇〇

→ こちらに議案の賛否をご記入ください。

議案

- 全員賛成の場合 >> 「賛」の欄に○印
- 全員反対する場合 >> 「否」の欄に○印
- 一部の候補者に反対する場合 >> 「賛」の欄に○印をし、反対する候補者の番号をご記入ください。

※議決権行使書はイメージです。

・書面（郵送）及びインターネットの両方で議決権行使をされた場合は、インターネットによる議決権行使を有効な議決権行使として取り扱いいたします。また、インターネットにより複数回、議決権行使をされた場合は、最後に行われたものを有効な議決権行使として取り扱いいたします。

・書面（郵送）での議決権行使において、議案に対する賛否の表示がない場合は、賛成の表示があったものとして取り扱いいたします。

- 4 -

事業報告

(2023年1月1日から
2023年12月31日まで)

1. 企業集団の現況

(1) 当連結会計年度の事業の状況

① 事業の経過及び成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、ロシア・ウクライナ情勢の長期化、イスラエル・ハマス問題による中東情勢の緊迫化など地政学的リスクが急速に高まっていることに加え、資源・エネルギー価格の高騰や円安の影響による物価上昇、中国経済の減速、及び欧米の金融引締め等により、引き続き先行き不透明な状況で推移しております。しかしながら、経済活動の正常化や所得環境の改善、政府による各種政策の効果等により、個人消費や設備投資は持ち直しの動きとなっており、国内景気は緩やかに回復しております。

このような状況のもと、旅行業界におきましては、人流の回復に伴い、全国的にイベント等の復活や、国内外の旅行者急増で需要が回復し、概ねコロナ前と同等もしくは上回る水準まで回復基調となりました。特に、訪日外客数におきましては、前年比554.1%増の2,506万人となり、4月の水際措置撤廃以降、右肩上がりで急回復を遂げ、単月では10月に初めて2019年同月比100%を超えており、年間累計では2019年同月比78.6%と8割程度まで回復が進みました。一方、2023年における出国日本人者数は前年比247.2%増の962万人となったものの、2019年度比では52.1%減と半数に届かず、本格回復には程遠い状況が続いております。

(出典：日本政府観光局 (JNTO))。

当社グループは、国内及び世界150か国の現地体験ツアーを専門に販売する日本最大級の旅行オンラインサービスを展開しており、その事業領域は旅行関連事業を収益区分別に分類し、

(1) 当社グループが運営する、現地体験ツアーオンライン予約サイト (日本語サイト「VELTRA」、催行地をハワイに特化した英語サイト「Hawaii Activities」) でのツアー予約にかかる収益を得るオンライン・トラベル・エージェント (以下、「OTA」) 事業、(2) 観光関連事業者のITインフラを供給するサービス、連結子会社であるリンクティビティ株式会社が展開するチケットプラットフォーム事業など、OTA事業以外から収益を得る事業 (以下、「観光IT事業」) より構成されております。

このような事業環境で、2023年は『心ゆさぶる体験を未来に届ける』というミッションのもと、観光地を訪れながら学ぶ機会を提供する現地体験アクティビティ『大人の修学旅行』シリーズを展開したり、アソビュー株式会社との戦略的業務提携を締結するなど、国内体験、訪日客向けサービスの強化に注力してまいりました。また、連結子会社のリンクティビティ株式会社が取り扱い商品や販売チャンネルを急速に拡大していることで、売上を大幅に伸ばしております。それらと並行して、各事業が着実に成長していることを受け、海外旅行事業部門並びにシステム開発部門の人員増強を中心とした人材投資や、中期的な事業拡大のための成長投資を実施してまいりました。

この結果、当連結会計年度の営業収益は3,123,349千円 (前期比168.4%増) となりました。

た。なお、営業収益を収益区分別にみますと、OTA事業が2,593,222千円（前期比162.8%増）、観光IT事業が530,126千円（前期比199.7%増）となりました。

利益につきましては、旅行需要回復を見越した人員の増強及び収益獲得のための広告宣伝強化を進めたことを受け、予約数の増加により下半期以降営業収益が大幅に回復したものの、営業損失は67,071千円（前期794,711千円の営業損失）、経常損失は112,349千円（前期753,928千円の経常損失）、親会社株主に帰属する当期純損失は57,708千円（前期794,447千円の親会社株主に帰属する当期純損失）となりました。

なお、当社グループは、旅行関連事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略しております。

② 設備投資の状況

当連結会計年度において実施いたしました当社グループの設備投資の総額は137,815千円で、その主なものは、ソフトウェア自社開発であります。

③ 資金調達の状況

当連結会計年度末において現金及び預金3,695,659千円と、前連結会計年度末比で896,495千円増加しておりますが、純資産は1,360,149千円と、前連結会計年度末比で20,983千円減少しております。これは、当社サービスの予約数増加にともなう前連結会計年度比で989,493千円の前受金の増加によるものが主な要因であります。

さらに、主要取引銀行とは総額1,600,000千円の当座貸越契約の継続を行っており貸越枠のうちの500,000千円の借入を実行しておりますが、引続き、主要取引銀行との関係を維持しつつ、継続的に支援いただくための協議を行ってまいります。なお、当連結会計年度末における借入未実行残高は、1,100,000千円となっております。

④ 事業の譲渡、吸収分割又は新設分割の状況

該当事項はありません。

⑤ 他の会社の事業の譲受けの状況

該当事項はありません。

⑥ 吸収合併又は吸収分割による他の法人等の事業に関する権利義務の承継の状況

該当事項はありません。

⑦ 他の会社の株式その他の持分又は新株予約権等の取得又は処分の状況

該当事項はありません。

(2) 直前3事業年度の財産及び損益の状況

① 企業集団の財産及び損益の状況

| 区 分 | 第31期 (2020年12月期) | 第32期 (2021年12月期) | 第33期 (2022年12月期) | 第34期 (当連結会計年度) (2023年12月期) |
|-----------------------------|---------------------|---------------------|---------------------|----------------------------------|
| 営 業 収 益(千円) | 890,513 | 492,656 | 1,163,530 | 3,123,349 |
| 経 常 損 失 (△)(千円) | △1,250,233 | △1,104,121 | △753,928 | △112,349 |
| 親会社株主に帰属する 当期純損失(△) (千円) | △1,547,255 | △1,157,363 | △794,447 | △57,708 |
| 1株当たり当期純損失(△) (円) | △53.58 | △35.12 | △22.92 | △1.62 |
| 総 資 産(千円) | 1,718,084 | 1,870,320 | 4,051,944 | 6,466,445 |
| 純 資 産(千円) | 552,374 | 1,175,678 | 1,381,132 | 1,360,149 |
| 1株当たり純資産額 (円) | 18.94 | 34.51 | 38.14 | 37.31 |

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第33期の期首から適用しており、第33期以降に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

② 当社の財産及び損益の状況

| 区 分 | 第31期 (2020年12月期) | 第32期 (2021年12月期) | 第33期 (2022年12月期) | 第34期 (当事業年度) (2023年12月期) |
|--------------------|---------------------|---------------------|---------------------|--------------------------------|
| 営 業 収 益(千円) | 954,085 | 300,201 | 692,477 | 2,383,049 |
| 経 常 損 失 (△) (千円) | △1,059,031 | △1,095,243 | △838,311 | △233,480 |
| 当期純損失(△) (千円) | △1,455,238 | △1,145,297 | △848,479 | △181,376 |
| 1株当たり当期純損失(△) (円) | △50.39 | △34.75 | △24.48 | △5.10 |
| 総 資 産(千円) | 1,628,913 | 1,413,273 | 2,723,010 | 4,053,131 |
| 純 資 産(千円) | 492,825 | 956,169 | 1,074,214 | 896,925 |
| 1株当たり純資産額 (円) | 16.88 | 28.27 | 29.91 | 24.87 |

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第33期の期首から適用しており、第33期以降に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

(3) 重要な親会社及び子会社の状況

① 親会社の状況

該当事項はありません。

② 重要な子会社の状況

| 会 社 名 | 資 本 金 | 当社の議決権比率 | 主 要 な 事 業 内 容 |
|---------------------------|-------------------------|------------------|----------------------|
| VELTRA Holdings Inc. | 1,503千 USドル | 100.0% | VELTRA Inc.の持株会社 |
| V E L T R A I n c . | 98千 USドル | 100.0 (100.0) | Hawaii Activitiesの運営 |
| VELTRA Malaysia Sdn. Bhd. | 500千 マレーシア リングgit | 100.0 | ITシステムの開発拠点 |
| リンクティビティ株式会社 | 310,005千 円 | 94.6 | 企業間の取引システムの提供 |

(注) 1. 議決権の所有割合又は被所有割合の(内数)は、間接所有割合であります。

2. 当事業年度の末日において特定完全子会社はありません。

3. City Discovery Inc. 及びVELTRA PHILIPPINES INC.につきましては当事業年度において清算終了しました。

(4) 対処すべき課題

継続企業の前提に関する重要事象等について

当社グループは、当連結会計年度において、営業損失67,071千円、親会社株主に帰属する当期純損失57,708千円を計上しましたが、これはCOVID-19の感染拡大からの旅行需要が徐々に回復しつつある中で、体制構築のための人材投資や中長期的な収益力を向上させるための施策への投資を実施したことが主な要因であります。

今後、2024年12月期の業績予想につきましても、市場回復率を保守的に見積もりながらも大幅に収益拡大が見込まれる海外旅行事業、およびインバウンド旅行需要の回復期において連結子会社であるリンクティビティ株式会社が展開するチケットプラットフォーム事業による収益拡大を織り込んだうえで、各段階利益において黒字になる見込みです。

以上を踏まえ、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況は、現時点において存在しないものと判断し、「継続企業の前提に関する重要事象等」の記載を解消いたしました。

また、当社グループが安定的な経営基盤のもと継続して成長できるよう以下の重要課題に取り組んでおります。

(1)取扱商品バリエーションと事業領域の拡大

2023年4月の水際対策終了に伴い海外から日本への旅行がしやすくなったことに加え、未曾有の円安も相まって訪日外国人客数が急速に回復しておりますが、それを受け、あらゆるグローバル企業が日本市場への参入を強化してきており、今後ますます競争が激化することが予想されます。当社グループではこれまで国内外の催行会社との強固な取引関係を構築してまいりましたが、今後もより一層の営業面での関係構築強化、及び催行会社とのリレーションを活かしたユニークで魅力ある商品バリエーションの企画・開発を推進してまいります。また、リンクティビティ株式会社におきましては、鉄道プラットフォームを中核に、商品カテゴリーや販売チャンネルを拡充し、更なる収益機会の拡大に努めてまいります。

(2)日本人の海外旅行需要増加に向けたサービス領域の拡大

2024年12月期の旅行業界におきましては、経済的要因に加えて不安的な国際情勢などから、日本人の海外旅行者数の回復は緩やかな傾向と想定されているものの、2024年は海外旅行自由化60周年となり、海外旅行の完全復活が最重要課題であるとされております。世界150か国、19,000種類以上の豊富な現地体験のラインナップを提供する当社グループとしても、日本人の海外旅行需要を喚起することが非常に重要な課題であると認識しており、これまで海外旅行市場で売上の70%超を占めていたツアー＆アクティビティの提供領域を、今後は「食・宿泊・移動」などその他の旅行消費活動領域まで拡大し、『心ゆさぶる体験』の利用機会を新たに創出してまいります。併せて、2024年1月17日に株式会社JTBと資本業務提携を締結したことを受け、海外の個人旅行者向けの日本語ガイドツアーを始めとする商品企画・販売の強化を推進し、顧客の選択肢拡大に繋げてまいります。

(3)当社グループの認知度及び企業価値の向上

当社グループの運営する『VELTRA』の顧客対象者は年齢層・地域とも非常に幅広いものの、認知度は依然発展途上であり、認知度向上を図ることが今後の事業の成長において重要な課題となっております。そのため、旅行需要に合わせて戦略的に広告宣伝費を投下し、顧客との接点を保持・拡充すると共に、政府や自治体、観光局との連携プロジェクトについても幅広く広報活動をおこなう等、認知度向上への施策に取り組んでまいります。

また、『人を想い、人に寄り添うことでより良い世界を実現する』をビジョンに掲げる当社グループとしましては、ビジネスにおいてサステナブルな貢献を継続することが重要であると認識しており、観光による環境や生物多様性への負荷軽減を推進するなど、サステナブルな社会の実現への貢献と企業価値の向上に努めてまいります。

(4)技術革新の促進と未来に拓がるシステムの構築

OTA事業を運営する当社グループにとって、競争の激しいインターネット市場においての安定的な成長と、新しい技術やビジネスモデルへの迅速かつ柔軟な対応が、重要な課題であると認識しております。2024年12月期におきましては、システムリニューアルを通して、高い信頼性と効率的なパフォーマンスを可能とするシステムを構築し、データセキュリティの強化等、安全で安心なサービスをユーザーへ提供してまいります。またモバイルアプリの機能改善を促進し、デジタル・ネイティブ向けのサービスを開発する等、テクノロジーに関する投資を引き続き積極的に推進してまいります。

(5)人材育成及び職場環境の整備

当社グループが更なる成長を遂げるため、挑戦や変革を厭わず、自らオーナーシップを持って行動できる人材を育成することが必要不可欠であると認識しております。社員がチャレンジできる機会を創出していくと共に、リーダー育成のための教育を継続し、更には組織としてのパフォーマンス最大化を図ってまいります。

また、優秀な人材の定着を促進し、多様化する働き方に応えるべく、社員のエンゲージメント向上のための施策、及び働き甲斐のある職場環境の整備に、引き続き努めてまいります。

(6)経営管理体制の強化

当社グループが継続的に安定したサービスを提供し、企業価値を向上させるためには、事業の状況に応じた経営管理体制の強化やコーポレート・ガバナンスの充実に向けた取り組みを行うことが重要な課題であると認識しております。2023年に監査等委員会設置会社に移行したことを受け、取締役会の監督機能を強化し、更なる管理体制の強化を推進すると共に、組織が健全かつ有効、効率的に運営されるべく、組織規模に応じた内部統制の整備、強化、見直しや法令遵守の徹底に努めてまいります。

(5) 主要な事業内容（2023年12月31日現在）

| 事業区分 | 事業内容 |
|--------|---------------------------|
| 旅行関連事業 | インターネットを利用した現地体験ツアーの予約販売等 |

(6) 主要な営業所及び工場（2023年12月31日現在）

① 当社

| | |
|----|--------|
| 本社 | 東京都中央区 |
|----|--------|

(注) 2023年6月26日をもって、本社を東京都千代田区から東京都中央区に移転しました。

② 子会社

| | | |
|--------------------------|----|-----------------|
| VELTRA Holdings, Inc. | 本社 | 米国 ハワイ州ホノルル市 |
| VELTRA, Inc. | 本社 | 米国 ハワイ州ホノルル市 |
| VELTRA Malaysia Sdn.Bhd. | 本社 | マレーシア クアラルンプール市 |
| リンクティビティ株式会社 | 本社 | 東京都千代田区 |

(7) 使用人の状況 (2023年12月31日現在)

① 企業集団の使用人の状況

| 事業区分 | 使用人数 | 前連結会計年度末比増減 |
|--------|------------|-------------|
| 旅行関連事業 | 219 (58) 名 | 66名増 (25名増) |

- (注) 1. 使用人数は就業人員（当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。）であり、パート及び嘱託社員は（ ）内に年間の平均人員を外数で記載しております。
2. 使用人数が前連結会計年度末にくらべて66名増加しておりますが、主に事業拡大に伴う人員採用によるものであります。

② 当社の使用人の状況

| 使用人数 | 前事業年度末比増減 | 平均年齢 | 平均勤続年数 |
|------------|-------------|-------|--------|
| 146 (49) 名 | 34名増 (20名増) | 37.0歳 | 4.5年 |

- (注) 1. 使用人数は就業人員（当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。）であり、パート及び嘱託社員は（ ）内に年間の平均人員を外数で記載しております。
2. 使用人数が前事業年度末に比べて34名増加しておりますが、主に事業拡大に伴う人員採用によるものであります。

(8) 主要な借入先の状況 (2023年12月31日現在)

| 借入先 | 借入額 |
|------------|-----------|
| 株式会社三井住友銀行 | 500,000千円 |

(9) その他企業集団の現況に関する重要な事項

該当事項はありません。

2. 会社の現況

(1) 株式の状況（2023年12月31日現在）

- ① 発行可能株式総数 95,000,000株
- ② 発行済株式の総数 35,580,100株
- ③ 株主数 11,005名
- ④ 大株主

| 株 主 名 | 持 株 数 | 持 株 比 率 |
|--|---------|---------|
| Paxalan S. à r. l. (常任代理人 小谷野税理士法人) | 9,810千株 | 27.57% |
| 株 式 会 社 オ ー プ ン ド ア | 4,100 | 11.52 |
| 齊 藤 精 良 | 2,165 | 6.08 |
| 永 島 徹 三 | 1,775 | 4.99 |
| 株式会社日本カストディ銀行（信託口） | 1,744 | 4.90 |
| 二 木 涉 | 1,530 | 4.30 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口） | 1,137 | 3.19 |
| 株 式 会 社 プ レ ン テ ィ ー | 750 | 2.10 |
| 萬 年 良 子 | 400 | 1.12 |
| 株式会社日本カストディ銀行（信託B口） | 366 | 1.02 |

(注) 持株比率は自己株式（97株）を控除して計算しております。

- ⑤ その他株式に関する重要な事項
発行済株式の増加理由について
第1回新株予約権の行使により62,600株増加しております。

(2) 新株予約権等の状況

- ① 当事業年度の末日において当社役員が保有している職務執行の対価として交付された新株予約権の状況（2023年12月31日現在）

| 発 行 決 議 日 | | | 第 1 回新株予約権 | 第 5 回新株予約権 |
|---|-------------------------|-------------------------|--|---|
| 新 株 予 約 権 の 数 | | | 2017年12月28日 | 2020年 3月25日 |
| 新 株 予 約 権 の 目 的 と 数 | | | 3,400個 | 300個 |
| 新 株 予 約 権 の 種 類 と 数 | | | 普通株式 340,000株 (新株予約権 100株) 1個につき | 普通株式 30,000株 (新株予約権 100株) 1個につき |
| 新 株 予 約 権 の 払 込 金 額 | | | 新株予約権と引換えに払い込みは要しない | 新株予約権と引換えに払い込みは要しない |
| 新 株 予 約 権 の 行 使 に 際 し て 出 資 さ れ る 財 産 の 価 額 | | | 新株予約権 1個あたり 7,800円 (1株あたり 78円) | 新株予約権 100円 1個あたり 1円 (1株あたり 1円) |
| 権 利 行 使 期 間 | | | 2019年12月29日から 2027年12月28日まで | 2024年 4月10日から 2027年 4月 9日まで |
| 行 使 の 条 件 | | | (注) 1 | (注) 2 |
| 役員の 保 有 状 況 | 取 締 役 (監査等委員 を除く) | 取 締 役 (社外取締役 を除く) | 新株予約権の数 3,400個 目的となる 340,000株 株式数 保有者数 3名 | — |
| | | 社 外 取 締 役 | — | 新株予約権の数 300個 目的となる株式 30,000株 数 保有者数 1名 |
| | 取 締 役 (監 査 等 委 員) | | — | — |
| | | | | |

- (注) 1. i 新株予約権を引き受けた者は、権利行使時においても、当社又は当社子会社等の取締役、監査役及び従業員等の地位にあることを要する。ただし、任期満了による退任や定年退職、その他正当な理由がある場合において、取締役会が承認したときは、この限りでない。
- ii 新株予約権を引き受けた者は、懲役刑又は禁固刑を受けた者（執行猶予を含む）でないことを要する。
- iii 新株予約権を引き受けた者の故意又は重過失により当社又は当社子会社に重大な損失が発生した場合、当該新株予約権を引き受けた者は、その新株予約権を行使することができない。

- iv その他の条件については、本総会及び取締役会決議に基づき、当社と新株予約権を引き受けた者との間で締結する引受契約書に定めるところによる。
- 2. i 新株予約権を引き受けた者は、行使可能開始日が属する年に開催する定時株主総会終結時点まで取締役の地位を保持していることを要する。
- ii 新株予約権を引き受けた者は、懲役刑又は禁固刑を受けた者（執行猶予を含む）でないことを要する。
- iii その他の条件については、本総会及び取締役会決議に基づき、当社と新株予約権を引き受けた者との間で締結する引受契約書に定めるところによる。
- 3. 2018年9月27日付で行った1株を100株とする株式分割により、「新株予約権の目的となる株式の種類と数」、「新株予約権の行使に際して出資される財産の価額」及び「役員の保有状況」における「目的となる株式数」は調整されております。
- ② 当事業年度中に職務執行の対価として使用人等に対し交付した新株予約権の状況
該当事項はありません。

(3) 会社役員の状況

① 取締役の状況（2023年12月31日現在）

| 会社における地位 | 氏 名 | 担 当 及 び 重 要 な 兼 職 の 状 況 |
|--------------|----------------------|--|
| 代 表 取 締 役 | 二 木 渉 | 社長兼CEO |
| 取 締 役 | 萬 年 良 子 | Global Sales & Solutions Division Director VELTRA Holdings, Inc. Director 一般社団法人日本旅行業協会（JATA）運営役員 公益社団法人企業情報化協会（IT協会）常任幹事 |
| 取 締 役 | 倉 上 智 晴 | HR & General Affairs Division Director |
| 取 締 役 | 皆 嶋 純 平 | CFO兼Headquarters Division Director VELTRA Holdings, Inc. Director VELTRA, Inc. Director VELTRA Malaysia Sdn.Bhd. Director リンクティビティ株式会社 取締役 |
| 取 締 役 | カ ス バ ー ト ロ ド ニ ー | Jayride Group Limited 取締役 Tourism Tasmania 取締役 |
| 取締役（常勤監査等委員） | 池 田 哲 司 | — |
| 取締役（監査等委員） | 毛 利 正 人 | 東洋大学国際学部グローバル・イノベーション学科 教授 株式会社テクノスジャパン 取締役（監査等委員） 株式会社Success Holders 取締役（監査等委員） |
| 取締役（監査等委員） | 鈴 木 学 | 西村あさひ法律事務所・外国法共同事業 パートナー 株式会社地域ヘルスケア連携基盤 監査役 SDFキャピタル株式会社 監査役 |

- (注) 1. 取締役カスバート ロドニー氏、常勤監査等委員である取締役 池田哲司氏、監査等委員である取締役 毛利正人氏、監査等委員である取締役 鈴木学氏は、社外取締役であります。
2. 当社は、監査等委員の監査・監督機能を強化し、日常的な情報収集及び重要な社内会議への出席による情報共有並びに内部監査部門と監査等委員会との十分な連携を可能にするため、池田哲司氏を常勤の監査等委員として選定しております。
3. 常勤監査等委員である取締役 池田哲司氏、監査等委員である取締役 毛利正人氏及び監査等委員である取締役 鈴木学氏は、以下のとおり、財務、会計及び法務等に関する相当程度の知見を有しております。
- ・常勤監査等委員である取締役 池田哲司氏は、米国の経営修士号を取得し、長年にわたり他社の経理部・財務部に在籍し、経理・財務業務に携わってきた経験があります。
 - ・監査等委員である取締役 毛利正人氏は、米国の会計学修士号を取得し、米国公認会計士協会の正会員資格を保有しております。
 - ・監査等委員である取締役 鈴木学氏は、弁護士資格を保有しております。
4. 当社は、取締役カスバート ロドニー氏、常勤監査等委員である取締役 池田哲司氏及び監査等委員である取締役 毛利正人氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。監査等委員である取締役 鈴木学氏においては、東京証券取引所の定めに基づく独立役員の基準を満たしておりますが、同氏を独立役員として届出しておりません。
5. 監査役河野雅之氏は、2023年3月24日開催の第33回定時株主総会終結の時をもって監査役を退任いたしました。

② 責任限定契約の内容の概要

当社は、業務執行取締役でない取締役カスバート ロドニー氏、及び各監査等委員である取締役との間で、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、同法第425条第1項に定める最低責任限度額といたします。なお、当該責任限定契約に基づく損害賠償責任額の限定が認められるのは、当該業務執行取締役でない取締役又は監査等委員である取締役が責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限られます。

③ 役員等賠償責任保険契約の内容の概要等

当社は取締役全員を被保険者とする会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を締結しております。当該契約の被保険者の範囲は当社の取締役（監査等委員である取締役を含む。）、並びに子会社の取締役及び監査役であり、被保険者がその職務の執行に関し責任を負うこと又は当該責任の追及にかかる請求を受けることによって生ずることのある損害が補填されます。なお、保険料は全額当社が負担しております。

④取締役の報酬等

i. 取締役（監査等委員である取締役を除く。）の個人別の報酬等の内容の決定に関する方針等

a. 方針の決定方法等

当社は2023年3月24日開催の取締役会において、取締役（監査等委員である取締役を除く。以下、本方針について同じ。）の個人別の報酬等の内容にかかる決定方針を決議しております。当該取締役会の決議に際しては、当該決定方針の内容について、あらかじめ報酬委員会の審議を経ております。

b. 決定方針の内容の概要

取締役の個人別の報酬等の内容にかかる決定方針の内容の概要は次の(a)ないし(d)のとおりです。

(a) 基本方針に関する事項

当社の取締役の報酬等は、その総枠について株主総会の承認を得た上で、個別の報酬額は報酬委員会の諮問を経たうえで、各年の定時株主総会終結後に開催される取締役会の決議（当該取締役会の委任に基づく代表取締役の決定を含む。）で決定します。

(b) 基本報酬（固定報酬）の個人別の報酬等の額の決定に関する方針（報酬等を与える時期または条件の決定に関する方針を含む。）

当社の取締役の基本報酬は、年額を12分割した金額について、毎月金銭支給としております。基本報酬の年額は、役位、職責、実績等に応じて世間水準、当社の業績、従業員給与の水準も考慮した上で決定するものとしております。

(c) 基本報酬の額、業績連動報酬等の額、非金銭報酬等の額の個人別の報酬等の額に対する割合の決定に関する方針

当社の取締役の報酬割合については、全て基本報酬（固定報酬）としております。

(d) 報酬等の決定の委任に関する事項

当社の取締役の個人別の報酬額について、取締役会決議に基づき、代表取締役に委任する場合、報酬委員会の諮問を経たうえで、その具体的内容について委任を受けるものとし、その権限の内容は、各取締役の基本報酬（固定報酬）の額とします。

ii. 個人別の報酬等の内容が決定方針に沿うと取締役会が判断した理由

取締役会は、当事業年度に係る取締役の個人別の報酬等について、報酬等の決定方法及び決定された報酬等の内容が取締役会で決議された決定方針と整合していることを確認しており、当該決定方針に沿うものと判断しております。

iii. 個人別の報酬等の内容の委任に関する事項

当事業年度の当社の取締役の個人等の報酬額については、2023年3月24日開催の取締役会決議に基づき、代表取締役社長兼CEO二木渉が、報酬委員会の諮問を経たうえで、その具体的内容について委任を受けており、その権限の内容は、各取締役の基本報酬（固定報酬）の額としております。委任した理由は、代表取締役社長兼CEOは当社全体の業績や個々の取締役の職務執行状況を俯瞰的に把握しており、当社全体の業績等を勘案しつつ各取締役の担う役割・責務等について評価を行うには、代表取締役社長兼CEOが適していると判断したためです。

iv. 当事業年度に係る取締役及び監査役の報酬等
当事業年度に係る報酬等の総額

| 区 分 | 報酬等の総額 | 報酬等の種類別の総額 | | | 対象となる 役員の員数 (非金銭報酬等 を除く) |
|----------------------------------|------------------------|------------------------|-------------|------------|-----------------------------------|
| | | 基本報酬 (固定報酬) | 業績連動 報酬等 | 非金銭 報酬等 | |
| 取 締 役 (監査等委員を除く) (うち社外取締役) | 71,275千円 (10,800千円) | 71,275千円 (10,800千円) | － (－) | － (－) | 6名 (2名) |
| 取締役 (監査等委員) (うち社外取締役) | 15,300千円 (15,300千円) | 15,300千円 (15,300千円) | － (－) | － (－) | 3名 (3名) |
| 監査役 (うち社外監査役) | 4,050千円 (4,050千円) | 4,050千円 (4,050千円) | － (－) | － (－) | 3名 (3名) |
| 合 計 (うち社外取締役、 社外監査役) | 90,625千円 (30,150千円) | 90,625千円 (30,150千円) | － (－) | － (－) | 9名 (5名) |

- (注) 1. 当社は、2023年3月24日開催の第33回定時株主総会決議に基づき、同日付で監査等委員会設置会社に移行しており、監査役の支給人員および報酬等は本移行前の期間に係るものであり、3名の中には、2023年3月24日開催の第33回定時株主総会終結の時をもって監査役を退任し、その後取締役に就任していない者1名を含みます。また、取締役 (監査等委員である取締役を除く。) の支給人員および報酬等は本移行前および本移行後の期間に係るものであり、6名の中には、2023年3月24日開催の第33回定時株主総会終結の時をもって取締役に退任し、監査等委員である取締役に就任した者1名を含みます。
2. 取締役の報酬等の額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。
3. 取締役 (監査等委員である取締役を除く。) の報酬限度額は、2023年3月24日開催の第33回定時株主総会において、年額300百万円以内と決議いただいております。当該株主総会終結時点の取締役 (監査等委員である取締役を除く。) の員数は5名 (うち社外取締役は1名) です。
4. 監査等委員である取締役の報酬限度額は、2023年3月24日開催の第33回定時株主総会において、年額50百万円以内と決議いただいております。当該株主総会終結時点の監査等委員である取締役の員数は3名であります。
5. 合計の支給員数につきましては、実際の支給員数を記載しております。

⑤ 社外役員に関する事項

i. 他の法人等の重要な兼職の状況及び当社と当該他の法人等との関係

- ・取締役カスバート ロドニー氏はJayride Group Limitedの取締役、Tourism Tasmaniaの取締役であります。当社と兼職先との間には特別の関係はありません。
- ・監査等委員である取締役 毛利正人氏は、東洋大学国際学部グローバル・イノベーション学科教授、株式会社テクノスジャパンの監査等委員である取締役、株式会社Success Holdersの監査等委員である取締役であります。当社と各兼職先との間には特別の関係はありません。
- ・監査等委員である取締役 鈴木学氏は、西村あさひ法律事務所・外国法共同事業パートナー、株式会社地域ヘルスケア連携基盤監査役、SDFキャピタル株式会社監査役であります。当社と各兼職先との間には特別の関係はありません。

ii. 当事業年度における主な活動状況

| | 出席状況及び発言状況並びに社外取締役期待される役割に関して行った職務の概要 |
|----------------------|---|
| 取締役 カスバート ロドニー | 当事業年度に開催された取締役会14回のうち13回に出席いたしました。出席した取締役会において、これまで欧米圏での会社の経営者を歴任してきたことに基づく豊富な経験や旅行業界に幅広いネットワークを有していることに基づく幅広い見識に基づく観点から、積極的に事業運営全般に対し、適確な発言を行っております。 |
| 取締役 (監査等委員) 池田哲司 | 当事業年度に開催された取締役会14回のうち14回、監査役会2回のうち2回、監査等委員会7回のうち7回に出席いたしました。出席した取締役会、監査役会及び監査等委員会において、上場会社を含む他企業の経理・財務業務の豊富な経験に基づく観点から、適宜発言を行っております。 |
| 取締役 (監査等委員) 毛利正人 | 当事業年度に開催された取締役会14回のうち14回、監査役会2回のうち2回、監査等委員会7回のうち7回に出席いたしました。出席した取締役会、監査役会及び監査等委員会において、コーポレート・ガバナンス等を専門とする大学教授としての高い専門性と幅広い見識に基づく観点から、適宜発言を行っております。 |
| 取締役 (監査等委員) 鈴木学 | 当事業年度に開催された取締役会14回のうち14回、監査等委員会7回のうち7回に出席いたしました。出席した取締役会及び監査等委員会において、弁護士として法律に関する高い専門性と幅広い見識に基づく観点から、当社グループ経営、資金調達においての意思決定の妥当性、適正性を確保するための適確な発言を行っております。 |

(4) 会計監査人の状況

① 名称

有限責任監査法人トーマツ

② 報酬等の額

| | 報酬等の額 |
|-------------------------------------|----------|
| 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額 | 44,000千円 |
| 当社及び子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額 | 44,000千円 |

(注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。

2. 監査等委員会は、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積りの算出根拠などが適切であるかどうかについて必要な検証を行ったうえで、会計監査人の報酬等の額について同意の判断をいたしました。

③ 非監査業務の内容

該当事項はありません。

④ 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

監査等委員会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定いたします。

また、監査等委員会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査等委員全員の同意に基づき会計監査人を解任いたします。この場合、監査等委員会が選定した監査等委員は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

⑤ 責任限定契約の内容の概要

該当事項はありません。

⑥ 補償契約の内容の概要等

該当事項はありません。

連結貸借対照表

(2023年12月31日現在)

(単位：千円)

| 科 目 | 金 額 | 科 目 | 金 額 |
|-------------------|-----------|-----------------|------------|
| (資 産 の 部) | | (負 債 の 部) | |
| 流 動 資 産 | 5,805,439 | 流 動 負 債 | 5,105,916 |
| 現 金 及 び 預 金 | 3,695,659 | 営 業 未 払 金 | 2,573,651 |
| 営 業 未 収 入 金 | 1,883,285 | 短 期 借 入 金 | 500,000 |
| そ の 他 | 226,493 | 未 払 金 | 178,359 |
| | | 未 払 法 人 税 等 | 30,005 |
| 固 定 資 産 | 661,006 | 前 受 金 | 1,504,435 |
| 有 形 固 定 資 産 | 35,121 | ポ イ ン ト 引 当 金 | 40,809 |
| 建 物 | 5,465 | 契 約 負 債 | 157,472 |
| 工 具、器 具 及 び 備 品 | 90,902 | そ の 他 | 121,183 |
| 減 価 償 却 累 計 額 | △61,246 | 固 定 負 債 | 379 |
| | | そ の 他 | 379 |
| | | 負 債 合 計 | 5,106,295 |
| 無 形 固 定 資 産 | 296,627 | (純 資 産 の 部) | |
| ソ フ ト ウ エ ア | 268,239 | 株 主 資 本 | 1,256,929 |
| ソ フ ト ウ エ ア 仮 勘 定 | 28,172 | 資 本 金 | 1,823,717 |
| そ の 他 | 216 | 資 本 剰 余 金 | 2,062,606 |
| | | 利 益 剰 余 金 | △2,629,324 |
| 投 資 そ の 他 の 資 産 | 329,256 | 自 己 株 式 | △70 |
| 投 資 有 価 証 券 | 102,190 | その他の包括利益累計額 | 70,575 |
| 繰 延 税 金 資 産 | 79,194 | 繰 延 ヘ ッ ジ 損 益 | △1,572 |
| そ の 他 | 147,871 | 為 替 換 算 調 整 勘 定 | 72,147 |
| | | 新 株 予 約 権 | 16,216 |
| | | 非 支 配 株 主 持 分 | 16,428 |
| 資 産 合 計 | 6,466,445 | 純 資 産 合 計 | 1,360,149 |
| | | 負 債 純 資 産 合 計 | 6,466,445 |

(2023年1月1日から)
(2023年12月31日まで)

(単位：千円)

| 科 目 | | | | 金 | 額 |
|------------------------------|-------------|-------|-----|---------|-----------|
| 営 | 業 | 収 | 益 | | 3,123,349 |
| 営 | 業 | 費 | 用 | | 3,190,421 |
| 営 | 業 | 損 | 失 | | 67,071 |
| 営 | 業 | 外 収 | 益 | | |
| | 受 取 | 利 息 | | 28 | |
| | 匿 名 組 合 投 資 | 利 益 | | 1,016 | |
| | そ の | 他 | | 3,328 | 4,373 |
| 営 | 業 | 外 費 | 用 | | |
| | 支 払 | 利 息 | | 2,530 | |
| | 為 替 | 差 損 | | 44,930 | |
| | 固 定 資 産 | 除 却 損 | | 323 | |
| | そ の | 他 | | 1,866 | 49,650 |
| 経 特 | 常 別 | 損 利 | 失 益 | | 112,349 |
| | 関 係 会 社 | 清 算 | 益 | 8,882 | 8,882 |
| 税 金 等 調 整 前 当 期 純 損 失 | | | | | 103,466 |
| 法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税 | | | | 28,948 | |
| 法 人 税 等 調 整 額 | | | | △76,842 | △47,893 |
| 当 期 純 損 失 | | | | | 55,573 |
| 非 支 配 株 主 に 帰 属 する 当 期 純 利 益 | | | | | 2,135 |
| 親 会 社 株 主 に 帰 属 する 当 期 純 損 失 | | | | | 57,708 |

貸借対照表

(2023年12月31日現在)

(単位：千円)

| 科 目 | 金 額 | 科 目 | 金 額 |
|-------------|-----------|---------------|------------|
| (資 産 の 部) | | (負 債 の 部) | |
| 流 動 資 産 | 3,137,751 | 流 動 負 債 | 3,156,206 |
| 現金及び預金 | 2,152,955 | 短期借入金 | 500,000 |
| 営業未収入金 | 784,473 | 営業未払金 | 1,044,449 |
| 前渡金 | 8,591 | 未払金 | 157,205 |
| 前払費用 | 65,973 | 未払費用 | 55,834 |
| 未収消費税等 | 67,605 | 未払法人税等 | 11,422 |
| その他 | 58,151 | 前受金 | 1,168,847 |
| 固 定 資 産 | 915,379 | 預り金 | 22,843 |
| 有形固定資産 | 21,999 | ポイント引当金 | 39,667 |
| 建物 | 5,465 | 契約負債 | 141,293 |
| 工具、器具及び備品 | 65,876 | その他の他 | 14,641 |
| 減価償却累計額 | △49,342 | 負 債 合 計 | 3,156,206 |
| 無 形 固 定 資 産 | 205,147 | (純 資 産 の 部) | |
| ソフトウェア | 187,930 | 株 主 資 本 | 886,437 |
| ソフトウェア仮勘定 | 17,000 | 資 本 金 | 1,823,717 |
| その他 | 216 | 資 本 剰 余 金 | 1,935,717 |
| 投資その他の資産 | 688,233 | 資 本 準 備 金 | 1,935,717 |
| 投資有価証券 | 102,190 | 利 益 剰 余 金 | △2,872,926 |
| 関係会社株式 | 502,655 | その他利益剰余金 | △2,872,926 |
| 出資金 | 100 | 繰越利益剰余金 | △2,872,926 |
| 繰延税金資産 | 53,642 | 自 己 株 式 | △70 |
| その他 | 29,645 | 評価・換算差額等 | △1,572 |
| | | 繰延ヘッジ損益 | △1,572 |
| | | 新株予約権 | 12,060 |
| 資 産 合 計 | 4,053,131 | 純 資 産 合 計 | 896,925 |
| | | 負 債 純 資 産 合 計 | 4,053,131 |

損 益 計 算 書

(2023年1月1日から
2023年12月31日まで)

(単位：千円)

| 科 目 | | | | 金 額 | | | | | | | | |
|-----|---|---|---|-----|-----------|----|--------|---------|---------|---|---|-------|
| 営 | 業 | 収 | 益 | | 2,383,049 | | | | | | | |
| 営 | 業 | 費 | 用 | | 2,570,161 | | | | | | | |
| 営 | 業 | 損 | 失 | | 187,112 | | | | | | | |
| 営 | 業 | 外 | 収 | | | 益 | | | | | | |
| | 受 | 取 | 利 | 息 | | 15 | | | | | | |
| | 匿 | 名 | 組 | 合 | 投 | 資 | 利 | 益 | 1,016 | | | |
| | そ | | | の | | | 他 | 3,171 | 4,202 | | | |
| 営 | 業 | 外 | 費 | 用 | | | | | | | | |
| | 支 | | 払 | | 利 | 息 | 2,530 | | | | | |
| | 為 | | 替 | | 差 | 損 | 45,850 | | | | | |
| | そ | | | の | | 他 | 2,190 | | 50,570 | | | |
| 経 | 常 | 損 | 失 | | | | | | 233,480 | | | |
| 特 | 別 | 利 | 益 | | | | | | | | | |
| | 関 | 係 | 会 | 社 | 清 | 算 | 益 | 2 | 2 | | | |
| 特 | 別 | 損 | 失 | | | | | | | | | |
| | 関 | 係 | 会 | 社 | 清 | 算 | 損 | 0 | 0 | | | |
| 税 | 引 | 前 | 当 | 期 | 純 | 損 | 失 | | 233,477 | | | |
| 法 | 人 | 税 | 、 | 住 | 民 | 税 | 及 | び | 事 | 業 | 税 | 1,540 |
| 法 | 人 | 税 | | | 調 | 整 | 額 | △53,642 | △52,101 | | | |
| 当 | 期 | 純 | 損 | 失 | | | | | 181,376 | | | |

連結計算書類に係る会計監査報告

独立監査人の監査報告書

2024年2月24日

ベルトラ株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ
東京事務所

| | | |
|--------------------|-------|--------|
| 指定有限責任社員 業務執行社員 | 公認会計士 | 佐野 明 宏 |
| 指定有限責任社員 業務執行社員 | 公認会計士 | 服部 理 |

監査意見

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、ベルトラ株式会社の2023年1月1日から2023年12月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ベルトラ株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結計算書類の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結計算書類に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結計算書類の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結計算書類又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

連結計算書類に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結計算書類を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結計算書類を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結計算書類の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結計算書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結計算書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結計算書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。

- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結計算書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結計算書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結計算書類の注記事項が適切でない場合は、連結計算書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結計算書類の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結計算書類の表示、構成及び内容、並びに連結計算書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結計算書類に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結計算書類の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

独立監査人の監査報告書

2024年 2月24日

ベルトラ株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ
東京事務所

| | | |
|-----------------|-------|---------|
| 指 定 有 限 責 任 社 員 | 公認会計士 | 佐 野 明 宏 |
| 業 務 執 行 社 員 | | |
| 指 定 有 限 責 任 社 員 | 公認会計士 | 服 部 理 |
| 業 務 執 行 社 員 | | |

監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、ベルトラ株式会社の2023年1月1日から2023年12月31日までの第34期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の計算書類等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

計算書類等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と計算書類等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

計算書類等に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではない

が、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。

- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

監査等委員会の監査報告

監 査 報 告 書

当監査等委員会は、2023年1月1日から2023年12月31日までの第34期事業年度における取締役の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

監査等委員会は、会社法第399条の13第1項第1号ロ及びハに掲げる事項に関する取締役会決議の内容並びに当該決議に基づき整備されている体制（会社の内部統制に係る体制全般）について取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明するとともに、下記の方法で監査を実施いたしました。

- (1) 監査等委員会が定めた監査の方針、職務の分担等に従い、会社の内部監査部門その他の内部統制所管部門と連携の上、重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行に関する事項の報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、子会社から事業の報告を受けました。
- (2) 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ①事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます
- ②取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③内部統制システムに関する取締役会の決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人有限責任監査法人トーマツの監査の方法及び結果は相当であると認めます。

(3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人有限責任監査法人トーマツの監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2024年2月26日

ベルトラ株式会社 監査等委員会
 常勤社外監査等委員 池田 哲司 ㊞
 社外監査等委員 毛利 正人 ㊞
 社外監査等委員 鈴木 学 ㊞
 以上

以上

(株主総会参考書類)

議案 取締役（監査等委員である取締役を除く。）４名選任の件

取締役（監査等委員である取締役を除く。）全員（５名）は本総会の終結の時をもって任期満了により退任となりますので、取締役（監査等委員である取締役を除く。）４名の選任をお願いするものであります。

取締役（監査等委員である取締役を除く。）候補者は、次のとおりであります。

| 候補者 番 号 | 氏 名 (生 年 月 日) | 略 歴、当社における地位及び担当 (重 要 な 兼 職 の 状 況) | 所 有 す る 当社の株式数 |
|------------|--|---|-------------------|
| 1 | ふたぎ わたる 二 木 渉 (1971年4月10日) (重任) | 1989年 4 月 株式会社IWANAGA入社 2000年 1 月 株式会社パックプラス入社取締役就任 2004年 4 月 当社入社 2009年 1 月 当社企画開発＆マーケティング部部長就任 2014年 3 月 当社海外事業本部長就任 2015年 4 月 当社代表取締役社長兼CEO就任（現任） | 1,530,000株 |
| 2 | くら かみ とも はる 倉 上 智 晴 (1971年3月22日) (重任) | 1994年 4 月 株式会社サンクレスト入社 1997年 8 月 オカベマーケティングシステム株式会社入社 1999年11月 有限会社フィス設立取締役就任 2001年 8 月 当社入社 2004年 4 月 当社アクティビティ事業営業部長就任 2015年 4 月 当社執行役員就任 2017年11月 当社取締役就任（現任） 2020年 3 月 当社HR Division Director就任 2021年 5 月 当社HR & General Affairs Division Director就任（現任） | 117,000株 |

| 候補者 番号 | 氏 名 (生年月日) | 略歴、当社における地位及び担当 (重要な兼職の状況) | 所 有 す る 当社の株式数 |
|-----------|---|--|-------------------|
| 3 | みな しま じゅん べい 皆 嶋 純 平 (1975年1月31日) (重任) | <p>1993年4月 明治製菓株式会社 (現:Meiji Seika ファルマ株式会社) 入社</p> <p>2000年10月 株式会社プレンティー入社</p> <p>2012年12月 株式会社Food's Style取締役就任</p> <p>2014年12月 株式会社Food's Style東京代表取締役社長就任</p> <p>2016年5月 当社入社経営管理部長就任</p> <p>2016年8月 当社取締役就任 (現任)</p> <p>2018年9月 当社Headquarters Division Director就任 (現任)</p> <p>2022年8月 当社CFO就任 (現任)</p> <p>(重要な兼職の状況)</p> <p>VELTRA Holdings, Inc. Director</p> <p>VELTRA ,Inc. Director</p> <p>VELTRA Malaysia Sdn.Bhd. Director</p> <p>リンクティビティ株式会社 取締役</p> | 80,000株 |
| 4 | カスバート ロドニー (1957年8月5日) (重任・社外・独立) | <p>1975年3月 NCR Corporation入社</p> <p>1979年11月 Digital Equipment Corporation入社</p> <p>1983年4月 Select MicroSystems入社</p> <p>1986年10月 Creative Laser Systems入社</p> <p>1991年5月 LaserTools Corporation入社</p> <p>1995年7月 Viator 設立 CEO就任</p> <p>2012年8月 ROME2RIO CEO就任</p> <p>2019年3月 当社社外取締役就任 (現任)</p> <p>2019年12月 Imperium Tourism Holdings取締役就任</p> <p>2020年2月 Jayride Group Limited取締役就任 (現任)</p> <p>2023年6月 Tourism Tasmania取締役就任 (現任)</p> <p>(重要な兼職の状況)</p> <p>Jayride Group Limited 取締役</p> <p>Tourism Tasmania 取締役</p> | — |

(注) 1. 各候補者と当社との間には特別の利害関係はありません。

2. カスバート ロドニー氏は、社外取締役候補者であります。

3. カスバート ロドニー氏を社外取締役候補者とした理由及び期待される役割の概要は、1995年に創業した現地体験ツアー予約サイト「Viator」の創業者であり、欧米圏での会社の経営者を歴任するとともに旅行業界に幅広いネットワークがあり、その豊富な経験と幅広い見識に基づいて、当社経営全般に関する意見、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を期待して選任しております。
4. カスバート ロドニー氏は、現在、当社の社外取締役であります。社外取締役としての在任期間は、本総会終結の時をもって5年となります。
5. 当社は、カスバート ロドニー氏との間で、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任について、その職務を行うにつき善意であり重大な過失がなかったときは、その損害賠償責任の限度額を、同法第425条第1項に定める最低責任限度額とする契約を締結しており、再任が原案どおり承認された場合は、当該契約を継続する予定であります。
6. 当社は、カスバート ロドニー氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として届け出ております。再任が原案どおり承認された場合は、当社は引き続きカスバート ロドニー氏を独立役員とする予定であります。
7. 当社は取締役全員を被保険者とする役員等賠償責任保険契約を締結しており、被保険者である取締役がその職務の執行に関し責任を負うこと又は当該責任の追及にかかる請求を受けることによって生ずることのある損害が補填されます。なお、各候補者は、当該契約の被保険者に含まれており、各候補者が取締役に就任した場合は、引き続き当該保険契約の被保険者となり、任期中中に当該保険契約について同内容での更新を予定しております。なお、保険料は全額当社が負担しております。

【ご参考】 本総会における議案が承認された場合の役員体制及びスキルマトリックス
 本総会における議案が承認可決された場合の取締役会の構成及び各取締役の専門性は下記のとおりです。

| | 企業 経営 | 業界経験 | 財務・会計 | 法務 コンプライ アンス | 人事 労務 人材開発 | 営業 マーケ ティング | グローバル経営 国際性 | テクノロジ ー |
|---------------|----------|------|-------|--------------------|------------------|-------------------|----------------|------------|
| 二木 渉 | ○ | ○ | | | | ○ | ○ | ○ |
| 倉上 智晴 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 皆嶋 純平 | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | |
| カスバート ロドニー | ○ | ○ | | | | ○ | ○ | ○ |
| 池田 哲司 | | | ○ | ○ | | | ○ | |
| 毛利 正人 | | | ○ | ○ | | | ○ | |
| 鈴木 学 | | | | ○ | | | ○ | |

以上

株主総会会場ご案内図

会場：東京都中央区日本橋兜町7番1号
KABUTO ONE 4階
HALL & CONFERENCE ホールA
TEL 03 - 6231 - 0567



交通 日比谷線・東西線茅場町駅 11番出口より 直結
都営浅草線・銀座線・東西線日本橋駅 D2出口より 徒歩約2分
JR線、丸の内線東京駅 八重洲北口より 徒歩約12分

株主の皆様へ
当社ホームページから随時情報を
発信中。是非ご覧ください。



UD FONT

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。